

PCT/JP00/05370

日 本 国 特 許 庁

PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

10.08.00

09/787607

JU

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日

Date of Application:

1999年 8月10日

REC'D 03 OCT 2000

WIPO

PCT

出 願 番 号

Application Number:

平成11年特許願第226247号

出 願 人

Applicant (s):

株式会社野村総合研究所

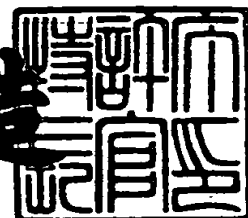
PRIORITY
DOCUMENT

SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH RULE 17.1(a) OR (b)

2000年 9月18日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

及川耕造



出証番号 出証特2000-3073427

【書類名】 特許願

【整理番号】 P990810001

【提出日】 平成11年 8月10日

【あて先】 特許庁長官

【国際特許分類】 H04H 1/08

【発明者】

【住所又は居所】 東京都千代田区大手町 2 - 2 - 1 株式会社野村総合研究所内

【氏名】 鳥山 正博

【発明者】

【住所又は居所】 東京都千代田区大手町 2 - 2 - 1 株式会社野村総合研究所内

【氏名】 有吉 昌康

【発明者】

【住所又は居所】 東京都千代田区大手町 2 - 2 - 1 株式会社野村総合研究所内

【氏名】 野村 至紀

【特許出願人】

【識別番号】 000155469

【氏名又は名称】 株式会社 野村総合研究所

【代理人】

【識別番号】 100083769

【弁理士】

【氏名又は名称】 北村 仁

【選任した代理人】

【識別番号】 100101384

【弁理士】

【氏名又は名称】 的場 成夫

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 064769

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 図面 1

【物件名】 要約書 1

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 番組評価装置、番組評価データ集計装置、番組評価方法および記録媒体

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

放送番組コンテンツの評価データを視聴者が入力するための評価データ入力手段と、
入力された評価データをデータベースセンターへ送信する送信手段を備えた番組評価装置。

【請求項 2】

放送番組コンテンツを出力したことを検知し、検知した場合に前記評価データ入力手段の入力を可能とする出力検知手段を備えた請求項 1 記載の番組評価装置。

【請求項 3】

視聴者の属性データを入力する属性入力手段を備えるとともに、
送信手段は、入力した属性データをデータベースセンターへ送信可能とした請求項 1 または請求項 2 記載の番組評価装置。

【請求項 4】

他人の評価データを参照したい旨をデータベースセンターへ送信する要求送信手段と、
その要求送信手段によるリクエストを受けてデータベースセンターが他人の評価データを送信した場合に、当該評価データを受信するデータ受信手段とを備えた請求項 1、請求項 2 または請求項 3 記載の番組評価装置。

【請求項 5】

要求送信手段には、参照したい評価データの選択条件を入力する選択条件入力手段を備えた請求項 4 記載の番組評価装置。

【請求項 6】

データ受信手段は、データベースセンターにおいて属性データごとに処理された評価データを受信可能とした請求項 4 記載の番組評価装置。

【請求項 7】

放送番組コンテンツを受信するコンテンツ受信手段、
および番組コンテンツを出力するコンテンツ出力手段を備えた請求項 1、請求項 2、請求項 3、請求項 4、請求項 5 または請求項 6 記載の番組評価装置。

【請求項 8】

放送番組コンテンツについて視聴者が評価した評価データを受信する評価データ受信手段、
受信した評価データを蓄積して集計する番組評価データベース、
および視聴者へ評価データを送信可能な送信手段を備えた番組評価データ集計装置。

【請求項 9】

視聴者が送信する属性データを受信する属性データ受信手段、
受信した属性データを蓄積して集計する視聴者属性データベース、
および評価データを属性データごとに集計する演算手段を備え、
送信手段は、演算手段が集計した評価データを送信可能とした請求項 8 記載の番組評価データ集計装置。

【請求項 10】

送信手段は、視聴者による属性データの受信および評価データの受信を条件に、当該視聴者への評価データの送信を可能とした請求項 9 記載の番組評価データ集計装置。

【請求項 11】

放送番組コンテンツを出力したことを検知する出力検知手順と、
当該コンテンツの評価データを視聴者が入力することを促す評価データ入力促進手順と、
入力された評価データをデータベースセンターへ送信する送信手順とを備えた番組評価方法。

【請求項 12】

放送番組コンテンツの評価データを視聴者が入力することを促す評価データ入力促進手順、

評価データをデータベースセンターへ送信する送信手順、
データベースセンターに蓄積された他人の評価データを受信するデータ受信手順、
および受信した他人の評価データを出力するデータ出力手順を備えた番組評価方法。

【請求項 13】

データ受信手順は、データベースセンターにおいて属性データごとに処理された評価データを受信可能とした請求項 12 記載の番組評価方法。

【請求項 14】

視聴者が送信する属性データを受信する属性データ受信手順、
受信した属性データを蓄積して集計する視聴者属性データ集計手順、
視聴者が放送番組について評価した評価データを受信する評価データ受信手順、
受信した評価データを蓄積して集計する番組評価データ集計手順、
および属性データごとに集計した評価データを視聴者へ送信する送信手順を備えた番組評価データ集計方法。

【請求項 15】

コンピュータに対し、
放送番組コンテンツを出力したことを検知する出力検知手順と、
当該コンテンツの評価データを視聴者が入力することを促す評価データ入力促進手順と、
入力された評価データをデータベースセンターへ送信する送信手順とを実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 16】

コンピュータに対し、
放送番組コンテンツを出力したことを検知する出力検知手順と、
視聴者の属性データを視聴者が入力することを促す属性入力促進手順と、
前記コンテンツの評価データを視聴者が入力することを促す評価データ入力促進手順と、
入力された属性データおよび評価データをデータベースセンターへ送信する送信

手順とを実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【請求項 17】

コンピュータに対し、
放送番組コンテンツを出力したことを検知する出力検知手順と、
視聴者の属性データを視聴者が入力することを促す属性入力促進手順と、
前記コンテンツの評価データを視聴者が入力することを促す評価データ入力促進手順と、
入力された属性データおよび評価データをデータベースセンターへ送信する送信手順と、
他人の評価データを参照したい旨をデータベースセンターへ送信する要求送信手順と、
その要求送信手順によるリクエストを受けてデータベースセンターが他人の評価データを送信した場合に当該評価データを受信するデータ受信手順とを実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明が属する技術分野】

この発明は、放送番組のコンテンツに対する視聴者の評価データを活用する技術に関するものである。

【0002】

【先行技術】

（商品の消費者による評価）

通常のハードウェア商品であれば、消費者の評価がメーカーへフィードバックされ、よりよい商品が提供される原動力になる。例えば、商品販売店による商品販売データ（いわゆるPOSデータ）も、いわば消費者の評価を表している。また、「暮らしの手帖」、「特選街」、国民生活センターが発行する「確かな目」といった定期刊行雑誌による評価は、これから商品を購入しようとする者が粗悪な商品を購入することを防止する力にもなり、メーカーによる改良、改善のきっかけ

になっている。そして、それが消費者の満足を引き出すことになる。

【0003】

（放送番組の評価）

一方、放送番組のコンテンツは、番組制作者が放送局を介して、視聴者へ提供されている。番組制作者がコンテンツという商品のメーカーであるとする、視聴者が商品の消費者である。そして、放送番組というコンテンツ商品の評価は、「視聴率」という唯一の指標にて判断されている。

【0004】

ここで、放送番組コンテンツに似た商品として、「映画」があるが、映画の場合には、興行収入という事後の評価があり、映画評論家や雑誌などのマスメディアによる評価というものもあり、かなり客観性のある指標が存在している。しかし、放送番組コンテンツの場合には、評論家などによる評価システムが存在しない。

【0005】

テレビ番組のガイドブックの類が、視聴前に参考にできる評論という役割をなすことも多い。しかし、そういった評論は、あまり役に立たない。その理由は、リアルタイムメディアであるが故に評論ができないということがある。また、放送番組は映画と異なり、数が多すぎるので丁寧な評論がなされていないということもある。今後放送チャンネルが益々増加するので、今まで以上に丁寧な評論がなされることは期待できない。また、NHKを除き番組にはスポンサーが付いているので、番組へのマイナス評価、批判的な評価はなされにくいという問題もある。更に、一部の有料放送以外では、「売り上げ、興行収入」といった概念も存在しない。

【0006】

（ハードディスクレコーダーの登場）

ところで、近年は録画装置の発達により、リアルタイムな視聴には限られなくなっている。特に、ハードディスク関連技術の進歩により、大容量化および低価格化が一気に進んだ近年では、「ハードディスクレコーダー（HDDR）」が実用化している。このハードディスクレコーダーとは、ビデオテープの代わりにハ

ードディスクへ放送番組を記録しておけるテレビである。このハードディスクレコーダーが普及すると、放送されている時間（リアルタイム）に視聴せずに録画をしておいて後から視聴する人間の割合が、現在よりも増加することは確実であろう。

【0007】

【発明が解決しようとする課題】

視聴率という指標による放送番組という商品の評価では、以下のような問題点がある。

まず、視聴率は、一義的には広告代理店およびテレビ局における番組枠取り引きのための指標であって、放送番組というコンテンツ商品を正しく評価する指標としては正確さを欠いていると言わざるを得ない。例えば、番組を視聴している時間が長い専業主婦などのセグメントが重んじられ、視聴時間の短い勤め人のセグメントは軽んじられている、という問題がある。

【0008】

また、放送番組というコンテンツは、時間のファクターを含む商品であり、一部の有料テレビを除いては金銭という代償がなく、その代わりに時間という代償が要求される。したがって、映画のような評論家などによる評価システムが存在しない放送番組コンテンツの場合、良いコンテンツであるか否かは、時間を消費して視聴してみなければ分からなかった。換言すれば、放送番組についても、実際の視聴の前に、偏りのない客観的な評論を参考にできるシステムの存在が望まれていた。

【0009】

更に、今後のハードディスクレコーダーの普及を予想すると、放送されている時間（リアルタイム）に視聴せずに録画をしておいて後から視聴する人間の割合が増加するので、実際の視聴の前に客観的な評論を参考にできるシステムを要望する声は、現在に増して高まることと予想される。

さて、視聴者が客観的な評価を参考にしたい、という要求に応えるシステムを想定した場合、著名な評論家による批評よりは、自分と属性や境遇の近い人々の評価を知りたいと考えられる。例えば、自分が30代のビジネスマンであれば、

30代のビジネスマンたちが良い評価を与えている番組が何か、評価していない番組は何か、ということを知りたいのであり、専業主婦や高校生によい評価をなされた番組にはあまり興味がないはずであろう。

【0010】

本発明が解決すべき課題は、有用かつ客観的な番組評価のためのデータを効率的に収集し、収集したデータを有効に活用するための技術を提供することにある。

ここで、請求項1ないし請求項7記載の発明の目的は、有用かつ客観的な番組評価のためのデータを効率的に収集可能な番組評価装置を提供することである。

【0011】

また、請求項8ないし請求項10記載の発明の目的は、有用かつ客観的な番組評価のためのデータを収集して活用するためのデータベース装置を提供することである。

また、請求項11ないし請求項14記載の発明の目的は、有用かつ客観的な番組評価のためのデータを効率的に収集し、収集したデータを有効に活用するための番組評価方法を提供することである。

【0012】

更に、請求項15ないし請求項17記載の発明の目的は、有用かつ客観的な番組評価のためのデータを効率的に収集可能な番組評価プログラムを提供することである。

【0013】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上記した目的を達成するためのものである。

請求項1から請求項7までは、視聴者が使用する番組評価装置について記載している。また、請求項8から請求項10までは、データベースセンターが使用するデータベース装置について記載している。更に、請求項15から請求項17までは、視聴者が使用するためのプログラムを提供するための記録媒体について記載している。

【0014】

(請求項1)

請求項1記載の発明は、放送番組コンテンツの評価データを視聴者が入力するための評価データ入力手段と、入力された評価データをデータベースセンターへ送信する送信手段を備えた番組評価装置に係る。

(用語定義)

「放送番組コンテンツ」とは、電波によって放送される番組であり、テレビ番組の他、ラジオ番組も含むものとする。なお、「視聴者」とは、「放送番組コンテンツ」がラジオ番組の場合には「聴取者」のことである。

【0015】

「評価データ入力手段」とは、キーボード、マウスなどの入力デバイスのほか、コンテンツを出力するための画像出力デバイスに組み込まれたタッチパネルセンサでもよいし、○×などの単純なボタン式の評価入力や、テキストデータによる文書入力を行える専用デバイスであってもよい。

更に、前述のような積極的な評価データ入力の他、消極的な評価データ入力の手段も、ここにいう「評価データ入力手段」に含まれるものとする。消極的な評価データ入力手段とは、例えば、放送番組を最初から最後まで見た、という旨は、最初から最後まで番組を見るに値した、という評価データであるとして評価データ入力手段によって入力される手段である。また、放送番組を途中で別の番組に切り替えた、という旨は、番組を最後まで見るに値しなかった、という評価データであるとして入力される。これらの評価データは、いわゆる「視聴率」を算出するデータとすることもできる。

【0016】

「データベースセンター」とは、送信されてくる評価データを蓄積して整理したり、必要に応じて取り出したりできる設備のことである。

「送信手段」とは、電話回線、専用回線などを通じてデータベースセンターへ評価データを送信するための手段であり、例えば、インターネットプロトコルを用いてインタラクティブ性を確保した通信システムがある。所定時間ごとに自動的に送信する手段、通信回線に常時接続している場合には送信命令を受けて送信する手段などがある。

【0017】

「送信手段」によって送信される「評価データ」には、放送日時、放送局および番組名など、どの番組コンテンツであるかを識別するためのデータ（番組識別データ）を含む。番組識別データは、番組コンテンツのデータ内に組み込まれた電子透かしなどを読み取ることによって取得することとしている。

（作用）

請求項1記載の番組評価装置は、以下のような作用を奏する。

【0018】

まず、放送番組コンテンツを視聴した視聴者が、評価データ入力手段によって評価データを入力する。入力された評価データは、送信手段がデータベースセンターへ送信する。

これによって、視聴者は視聴したコンテンツについての評価をすることができ、データベースセンターは放送番組コンテンツに対する評価データを蓄積することができる。

【0019】

（請求項2）

請求項2記載の発明は、請求項1記載の番組評価装置を限定したものであり、放送番組コンテンツを出力したことを検知し、検知した場合に前記評価データ入力手段の入力を可能とする出力検知手段を備えた番組評価装置に係る。

（用語説明）

「出力検知手段」とは、例えば、放送番組コンテンツの出力手段と電氣的に接続されることによって、放送番組コンテンツが出力された場合にその旨を検知する装置である。放送番組コンテンツが出力された場合には、視聴者が存在すると推察できる。

【0020】

放送番組コンテンツのデータ内に番組を特定する番組IDが含まれている場合には、その番組IDを用いて番組を特定する。リアルタイムの視聴者の場合には、チャンネル及び時刻データから番組を特定することもできる。

（作用）

出力検知手段が放送番組コンテンツを出力したことを検知した場合に、評価データ入力手段の入力が可能となる。反射的に、視聴者による評価データの入力の促進にもなり、評価データの効率的な収集に役立つ。

【 0 0 2 1 】

(請求項 3)

請求項 3 記載の発明は、請求項 1 または請求項 2 記載の番組評価装置を限定したものであり、

視聴者の属性データを入力する属性入力手段を備えるとともに、送信手段は、入力した属性データをデータベースセンターへ送信可能とした番組評価装置に係る。

【 0 0 2 2 】

(用語説明)

「属性データ」とは、視聴者の性別、年齢または年代、職業などである。例えば、予めメニューボタンを用意しておき、選択式の入力とする。なお、評価データを入力した放送番組コンテンツおよびその評価データをデータベース化した場合、そのデータベースを用いて分析した嗜好データについても、この属性データに含まれるものとする。

【 0 0 2 3 】

「属性入力手段」とは、キーボード、マウスなどの入力デバイスのほか、コンテンツを出力するための画像出力デバイスに組み込まれたタッチパネルセンサでもよいし、○×などの単純なボタン式の評価入力を行える専用デバイスであってもよい。請求項 1 の用語説明で記載した「評価データ入力手段」を兼用したもの、あるいは別に設けたものであってもよい。

【 0 0 2 4 】

(作用)

視聴者は、属性入力手段を用いて属性データを入力する。すると、送信手段が入力した属性データをデータベースセンターへ送信する。データベースセンターにおいては、番組評価データとともに属性データを獲得することとなる。

(請求項 4)

請求項4記載の発明は、請求項1、請求項2または請求項3記載の番組評価装置を限定したものであり、

他人の評価データを参照したい旨をデータベースセンターへ送信する要求送信手段と、その要求送信手段によるリクエストを受けてデータベースセンターが他人の評価データを送信した場合に、当該評価データを受信するデータ受信手段とを備えた請求項1、請求項2または請求項3記載の番組評価装置に係る。

【0025】

(作用)

請求項4記載の番組評価装置は、以下のような作用を奏する。

まず、視聴者が要求送信手段によって、他人の評価データを参照したい旨をデータベースセンターへ送信する。データベースセンターは、他人の評価データを参照したい旨のリクエストを受けて、当該視聴者とは別の人の評価データを送信する。

【0026】

送信された評価データは、データ受信手段によって受信され、適宜の手段によって出力されて参照できる。ここにおいて、リアルタイムに視聴せずに記録しておいた放送番組コンテンツにつき、視聴するか否かの判断をする材料として、他人の評価データを用いることができる。その結果、限られた時間を有効に使うことができる。

【0027】

(請求項5)

請求項5記載の発明は、請求項4記載の番組評価装置を限定したものであり、要求送信手段には、参照したい評価データの選択条件を入力する選択条件入力手段を備えた番組評価装置に係る。

(用語説明)

「選択条件入力手段」にいう「選択条件」とは、例えば、自分と同じあるいは近似する属性データにおける10人、といった条件や、嗜好が同じあるいは似ている5人、といった条件などがある。

【0028】

(作用)

請求項 5 記載の番組評価装置は、請求項 4 記載の番組評価装置の作用に加え、以下のような作用を奏する。

すなわち、要求送信手段がリクエストを送信する際に、選択条件入力手段によって参照したい評価データの選択条件を入力する。データベースセンターは、選択条件付きのリクエストを受けて、当該選択条件に適合する評価データを送信する。

【 0 0 2 9 】

ここにおいて、視聴者は、自分が参考にしたり比較したい選択条件に適合した他人の評価データを入手できる。

(請求項 6)

請求項 6 記載の発明は、請求項 4 記載の発明を限定したものであり、データ受信手段は、データベースセンターにおいて属性データごとに処理された評価データを受信可能とした番組評価装置に係る。

【 0 0 3 0 】

(作用)

請求項 6 記載の番組評価装置は、請求項 4 記載の番組評価装置の作用に加え、以下のような作用を奏する。

すなわち、データベースセンターが、過去のデータや視聴者の属性データなどによって、送信すべき評価データを選択する。そのため、評価データが不規則あるいは大量に送信されることがなく、視聴者は選択された評価データのみを参照すればよい。

【 0 0 3 1 】

(請求項 7)

請求項 7 記載の発明は、請求項 1、請求項 2、請求項 3、請求項 4、請求項 5 または請求項 6 記載の番組評価装置を限定したものであり、放送番組コンテンツを受信するコンテンツ受信手段、および番組コンテンツを出力するコンテンツ出力手段を備えた番組評価装置に係る。

【 0 0 3 2 】

(用語説明)

本請求項にいう番組評価装置は、番組コンテンツを受信して出力し、当該コンテンツに対する評価までが行える装置である。

「コンテンツ受信手段」とは、放送番組コンテンツを受信できる装置であり、テレビ放送の場合には、いわゆるテレビ受像器、テレビ機能を付加したパーソナルコンピュータなどであり、ラジオ放送であればラジオ受信機である。

【0033】

「コンテンツ出力手段」とは、コンテンツを再生する装置であり、画像再生デバイスおよび音声再生デバイスから構成されている。画像再生デバイスについてはCRT装置、液晶ディスプレイ、プラズマディスプレイ、音声再生デバイスについてはスピーカなどである。

なお、コンテンツ保存手段を備えていることが望ましい。ここで、「コンテンツ保存手段」とは、受信した番組コンテンツを電子化して保存する記憶装置であって、ランダムアクセスが可能で記憶容量が大きいものが好ましい。映像を伴う番組コンテンツに対しては、例えば、ハードディスク、DVD-RAMなどが好ましい。その他、MO（光磁気ディスク）、ZIP装置、CD-RWなどもありえる。

【0034】

(作用)

請求項7記載の番組評価装置は、コンテンツ受信手段およびコンテンツ出力手段を備えているので、評価データを入力し、その評価データを送信する前に、番組コンテンツを受信、出力をさせることができる。

(請求項8)

請求項8記載の発明は、放送番組コンテンツについて視聴者が評価した評価データを受信する評価データ受信手段、受信した評価データを蓄積して集計する番組評価データベース、および視聴者へ評価データを送信可能な送信手段を備えた番組評価データ集計装置に係る。

【0035】

(作用)

請求項 8 記載の発明は、以下のような作用を奏する。

まず、評価データ受信手段が、視聴者が放送番組コンテンツについて評価した評価データを受信する。そして、番組評価データベースが受信した評価データを蓄積して集計する。集計した評価データは、視聴者からの要請があった場合、あるいは定期的に、送信手段が視聴者へ送信する。

【0036】

(請求項 9)

請求項 9 記載の発明は、請求項 8 記載の番組評価データ集計装置を限定したものであり、

視聴者が送信する属性データを受信する属性データ受信手段、受信した属性データを蓄積して集計する視聴者属性データベース、および評価データを属性データごとに集計する演算手段を備え、送信手段は、演算手段が集計した評価データを送信可能とした番組評価データ集計装置に係る。

【0037】

(作用)

請求項 9 記載の番組評価装置は、請求項 8 記載の番組評価装置の作用に加え、以下のような作用を奏する。

まず、属性データ受信手段は、視聴者が送信する属性データを受信し、視聴者属性データベースが受信した属性データを蓄積し、演算手段が属性データごとに集計する。そして、演算手段が集計した評価データは、視聴者からの要請があった場合、あるいは定期的に、送信手段が視聴者へ送信する。

【0038】

(請求項 10)

請求項 10 記載の発明は、請求項 9 記載の番組評価データ集計装置を限定したものであり、

送信手段は、視聴者による属性データの受信および評価データの受信を条件に、当該視聴者への評価データの送信を可能とした番組評価データ集計装置に係る。

【0039】

例えば、属性データを入力して送信してもらうことを初期登録とし、すくなく

ともひとつの評価データの入力送信をしてもらうこと条件に、他人の評価データを参照できる番組評価データ集計装置となる。

(作用)

視聴者は、自らの属性データおよび自分の判断による評価データを送信しなければ、他の人が入力、送信した評価データを参照できない。反射的な効果として、視聴者は、他人の評価データを参照したい場合、自らの属性データおよび自分の判断による評価データを入力、送信を促すこととなる。

【 0 0 4 0 】

(請求項 1 1)

請求項 1 1 記載の発明は、電波放送される番組コンテンツを受信するコンテンツ受信手順、受信した番組コンテンツ保存するコンテンツ保存手順、番組コンテンツを出力するコンテンツ出力手順、番組コンテンツの評価データを入力する評価入力手順、および評価データをデータベースセンターへ送信する送信手順を備えた番組評価方法に係る。

【 0 0 4 1 】

(請求項 1 2)

請求項 1 2 記載の発明は、放送番組コンテンツの評価データを視聴者が入力することを促す評価データ入力促進手順、評価データをデータベースセンターへ送信する送信手順、データベースセンターに蓄積された他人の評価データを受信するデータ受信手順、および受信した他人の評価データを出力するデータ出力手順を備えた番組評価方法に係る。

【 0 0 4 2 】

(請求項 1 3)

請求項 1 3 記載の発明は、請求項 1 2 記載の番組評価方法を限定したものであり、

データ受信手順は、データベースセンターにおいて属性データごとに処理された評価データを受信可能とした番組評価方法に係る。

【 0 0 4 3 】

(請求項 1 4)

請求項 1 4 記載の発明は、視聴者が送信する属性データを受信する属性データ受信手順、受信した属性データを蓄積して集計する視聴者属性データ集計手順、視聴者が放送番組について評価した評価データを受信する評価データ受信手順、受信した評価データを蓄積して集計する番組評価データ集計手順、および属性データごとに集計した評価データを視聴者へ送信する送信手順を備えた番組評価データ集計方法に係る。

【 0 0 4 4 】

(請求項 1 5)

請求項 1 5 記載の発明は、視聴者側が利用するソフトウェアを記録した記録媒体である。すなわち、コンピュータに対し、放送番組コンテンツを出力したことを検知する出力検知手順と、当該コンテンツの評価データを視聴者が入力することを促す評価データ入力促進手順と、入力された評価データをデータベースセンターへ送信する送信手順とを実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体に係る。

【 0 0 4 5 】

ここで、「記録媒体」とは、それ自身では空間を占有し得ないプログラムを担持することができる媒体であり、例えば、フロッピーディスク、CD-ROM、MO（光磁気ディスク）、PDなどである。

(作用)

本発明に係る記録媒体のプログラムをコンピュータにインストールする。すると、まず、出力検知手順によって放送番組コンテンツを出力したことを検知する。このとき、視聴者が当該コンテンツを視聴したものと推察できる。次に、評価データ入力促進手順によって視聴者へ評価データの入力を促す。これに従って、視聴者は当該コンテンツに対する評価データを入力する。入力された評価データは、送信手順によってデータベースセンターへ送信される。

【 0 0 4 6 】

(請求項 1 6)

請求項 1 6 記載の発明は、請求項 1 5 記載の発明に係るプログラムの機能を追加したものである。すなわち、コンピュータに対し、放送番組コンテンツを出力

したことを検知する出力検知手順と、視聴者の属性データを視聴者が入力することを促す属性入力促進手順と、前記コンテンツの評価データを視聴者が入力することを促す評価データ入力促進手順と、入力された属性データおよび評価データをデータベースセンターへ送信する送信手順とを実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体に係る。

【0047】

(作用)

属性入力促進手順によって視聴者へ評価データの入力を促す。これに従って、視聴者は自らの属性データを入力する。入力された属性データは、評価データとともに送信手順によってデータベースセンターへ送信される。

(請求項17)

請求項17記載の発明は、請求項15または請求項16記載の発明に係るプログラムの機能を追加したものである。

【0048】

すなわち、コンピュータに対し、放送番組コンテンツを出力したことを検知する出力検知手順と、視聴者の属性データを視聴者が入力することを促す属性入力促進手順と、前記コンテンツの評価データを視聴者が入力することを促す評価データ入力促進手順と、入力された属性データおよび評価データをデータベースセンターへ送信する送信手順と、他人の評価データを参照したい旨をデータベースセンターへ送信する要求送信手順と、その要求送信手順によるリクエストを受けてデータベースセンターが他人の評価データを送信した場合に当該評価データを受信するデータ受信手順とを実行させるためのプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体に係る。

【0049】

(作用)

要求送信手順により、他人の評価データを参照したい旨をデータベースセンターへ送信する。送信されたデータベースセンターでは、他人の評価データを参照したい旨のリクエストを受けて、当該視聴者とは別の人の評価データを送信する。

【0050】

送信された評価データは、データ受信手段によって受信され、適宜の手段によって出力されて参照できる。

(その他)

請求項15、請求項16または請求項17に記載した記録媒体に記録されたプログラムは、視聴者が通信事業者の公衆通信回線を利用して、プログラム提供者のサーバへアクセスし、視聴者のディスプレイ上に表示されたボタンをクリックすることを通じて、視聴者のハードディスクへダウンロードすることが可能であるように、データベースセンターの運用者が構築することもできる。すなわち、データベースセンターの運用者は、前述のプログラムをダウンロード可能な送信装置を提供することも可能である。

【0051】

【発明の実施の形態】

以下、本発明を実施の形態及び図面に基づいて、更に詳しく説明する。ここで使用する図面は、図1乃至図7である。図1は、本発明の実施形態の全体を示す概念図である。図2は、本発明の実施形態の一部を示す概念図である。図3は、本発明の実施形態の一部を示す概念図である。図4は、本発明の実施形態における評価データのイメージを示す概念図である。図5は、本発明の実施形態における評価データ利用のイメージを示す概念図である。図6は、本発明の実施形態における評価データ端末装置のイメージを示す概念図である。図7は、視聴者、データベースセンター、放送局においてどのような機能が備わっているか、それらの機能はどのように提供されているかを整理した図である。

【0052】

(概要)

図1に示すように、本実施形態は、放送局から提供される番組コンテンツを視聴した視聴者が番組を評価して評価データをデータベースセンターに集積する一方、他人の評価データを参照してから番組を視聴することを可能にしたシステムである。また、評価データを番組制作会社へ提供し、次なる番組制作の参考にしてもらうこともできる。

【0053】

(放送局および視聴者の関係)

放送局は、図1に示すように、放送番組コンテンツを放送するための放送設備によって、番組コンテンツを視聴者に提供する。

視聴者は、リアルタイムにコンテンツを視聴するタイプ(図1中の視聴者A)と、一旦コンテンツを録画してから視聴するタイプ(図1中の視聴者B)とに大別される。視聴者Aにおいては、放送受信機能としてのテレビ受像器、コンテンツ出力機能としてのテレビモニタが必要である。視聴者Bにおいては、更に、コンテンツを録画して保存するためのハードディスクレコーダーが必要となる。テレビ機能を付加したパーソナルコンピュータでもよい。

【0054】

(評価データの入力)

番組コンテンツを視聴した視聴者Aは、図6に示すような評価データ端末装置を用いてコンテンツに対する評価データ、および視聴者Aの属性データを入力する。

この評価データ端末装置は、番組コンテンツを受像したり再生したりする装置とは別に、番組の評価のみを行う装置を物理的に独立させたものであり、評価データを視聴者が入力し、その入力データをデータベースセンターへ送信するための装置である。図6にそのイメージを示している。

【0055】

操作は、カーソルキー、選択ボタン、キャンセルボタン、送信ボタン等を備えている。必要に応じて、他のキーを備えていてもよい。また、液晶パネルをも備えており、その液晶パネルには、入力すべき項目を指示するための表示がなされる。

図6中の液晶パネルに示されている二つの質問は、視聴者の属性データの一部である。属性データについては、評価データの評価主体との関係もあるので、後述する。また、図示は省略するが、属性データの入力後、評価データを入力することとしている。

【0056】

入力されたデータは、一旦 R A M に記憶され、公衆電話回線を介して送信される。

(評価データ端末装置の機能)

上述の評価データ端末装置には、以下のような機能が備わっている。

まず、番組コンテンツを出力したことを検知する出力検知機能である。具体的には、図 2 などに示すように、テレビ受像器と電氣的に接続されることによって、番組が出力された旨を検知する。この機能は、番組コンテンツを視聴したら必ず評価データを入力してもらうための機能であり、評価データの効率的な収集に役立つ。なお、出力検知機能には、放送日時、放送局および番組名などの番組識別データを取得できるものもある。番組識別データは、番組コンテンツのデータ内に組み込まれた電子透かしを読み取ることによって取得することとしている。

【 0 0 5 7 】

次に、属性データおよび評価データの入力促進機能である。これは、端末装置の液晶パネルに質問を出力するソフトウェアなどによって達成される。これらの出力表示は、端末装置にチップとして予め埋め込まれた R O M によることとしてもよいが、データベースセンターから毎回送信されることとしてもよいし、定期的にデータベースセンターが書き換えるようにしてもよい。毎回の送信および定期的な書き換えの場合には、入力すべき項目の指示データのために、書き換え可能な記憶装置が必要である。

【 0 0 5 8 】

次に、属性データおよび評価データの入力機能である。これらは、端末装置の入力キーなどによって達成される。なお、図 6 のような入力キーを用いず、液晶タッチパネルによる入力デバイスとすることは、当然可能である。

次に、属性データおよび評価データなど、この端末装置によって入力したデータの送信機能である。この機能は、モデムおよび通信ソフトウェアによって達成される。

【 0 0 5 9 】

なお、評価データ端末装置には、視聴者による積極的な入力となされない場合に機能する、自動入力の仕組みを備えていてもよい。例えば、番組コンテンツを

最後まで視聴した場合には、「○または△」を自動入力したり、最後まで視聴しなかった場合には「△または×」を自動入力するようにしてもよい。

(評価データ)

評価データは、評価主体（A氏およびB氏）の一評価ごとに信される。ただし、所定時間ごとにまとめてデータを送信することも可能である。

【0060】

図4は、送信された評価データを評価主体ごとに出力させた例である。、図4では表現の便宜上、横軸が時刻ごととなっているが、現実には番組名ごとに評価データとなっている。

A氏は、図1に示したようにリアルタイム視聴者であるが、同時刻に複数のチャンネルに対する評価をしているのは、番組の途中でチャンネルを変えたからである。

【0061】

評価は、図4や図6に示したように、「○：よかった」、「△：まあまあ」、「×：よくなかった」の三段階としている。ただし、もっと段階を細かくしてもよいし、二段階でもよい。更に、別途キーボードなどを用いたり、液晶にキーボード表示をさせるなどして、文書による評価を入力して送信できるようにしてもよい。

【0062】

(他人の評価データの参照)

図1の視聴者Bにて示すように、番組コンテンツを録画し、他人の評価データを入手してからその評価データを参考にして視聴する番組を選択し、選択した番組のみを視聴するという場合について説明する。

視聴者Bの手元には、図3に示すように、番組コンテンツを録画するハードディスクレコーダー、他人の評価データを入手してからその評価データを出力できる機能を備えたハードウェア及びソフトウェアが備えられている。すなわち、他人の評価データを参照したい旨をデータベースセンターへ送信する要求送信手段（参照評価データ要求機能）と、その要求送信手段によるリクエストを受けてデータベースセンターが他人の評価データを送信された場合に当該評価データを受

信するデータ受信手段（参照評価データ受信機能）と、受信したデータを出力する出力手段（参照評価データ出力機能）とで、他人の評価データを入手してからその評価データを参考とするのである。

【0063】

要求送信手段には、参照したい評価データの選択条件を入力することができるようにしている。「選択条件」とは、例えば、自分が20代男性のサラリーマンであれば、「20代男性サラリーマン」という属性データを選択条件とする。更に、選択条件に適合する評価データが多数ある場合には、別の選択条件によって絞り込むことができたり、ひとまず10人、といった選択も可能としている。

【0064】

なお、選択条件の入力がない場合には、データベースセンター側で自動的に選択するようにしている。例えば、図5に示すような「自分と評価の一致率が高い人」をデータベースセンターにおいてランキングして送信するのである。一致率が高いということは、嗜好が似ていると予想できるからである。なお、嗜好と属性とを適宜組み合わせで絞り込んだり、逆に条件をゆるめたりすることは当然可能である。

【0065】

図5では、完全一致を「+2点」、「○と△」および「△と×」を「+1点」、完全不一致を「-2点」としてカウントし、点数の高さ／一致率の高さ順に、ランキングすることとしている。そして、上位5人分の評価データをB氏へ送信するのである。送信されたデータは、最初に出力されるのは、ランク順に一致率および属性である。そして、5人のいずれかをクリックすると、クリックされた人物が評価したデータを閲覧できるようにしてある。5人のいずれかまたは全員を参照にしたA氏は、録画してある番組のうち、どの番組を見るか決定する参考にする。

【0066】

（プログラムの提供）

視聴者側が使用するハードディスクレコーダーが、前述してきたような機能を備えるためには、プログラムが必要である。そのプログラムは、コンピュータに

対し、放送番組コンテンツを出力したことを検知する出力検知手順と、当該コンテンツの評価データを視聴者が入力することを促す評価データ入力促進手順と、入力された評価データをデータベースセンターへ送信する送信手順とを実行させるためのプログラムである。更に、そのプログラムは、視聴者の属性データを視聴者が入力することを促す属性入力促進手順を含んでいる。このプログラムを記録したコンピュータ読み取り可能な記録媒体を、視聴者に対して無償あるいは有償で配布する。

【0067】

(データベースセンター)

データベースセンターは、属性データや評価データを受信するデータ受信機能、それらデータを蓄積する評価データベースおよび属性データベース、データをソートしたり演算したりするための両データ演算機能、他人の評価データを参照したいという要求を受信するリクエスト受信機能、その要求に対してどの評価データを送り返すかを演算する参照データ演算機能、および演算して抽出した参照データを送信する参照データ送信機能などを備えている。

【0068】

本実施形態においては、属性データを入力して送信してもらうことを初期登録とし、すくなくともひとつの評価データの入力送信をしてもらうこと条件に、他人の評価データを参照できる番組評価データ集計装置としている。したがって、視聴者は、自らの属性データおよび自分の判断による評価データを送信しなければ、他の人が入力、送信した評価データを参照できない。

【0069】

以下、明確でない言葉や用語の定義や疑義について記述する。ただし、それらの記述の不完全さが、本願発明の範囲を狭めたりすることはない。

(「一番組」について)

通常、「一番組」とは、放送局が定めた番組タイトルのついたものをひとつとしてカウントする。

【0070】

民放の場合、コマーシャルとコマーシャル、あるいは番組との間に設けられた

1 / 60 秒のインターバルを検知することによって一番組とする。

また、番組タイトルから見ると一番組であっても、長時間の番組であるために番組のスポンサーがグループ化されている場合には、スポンサーのグループごとに一番組としてもよい。なお、放送局や番組制作会社の都合によって「一番組」を定義することは可能である。

【0071】

（「一評価」について）

ひとつの評価は、一つの番組に対してひとつなされるのが原則である。しかし、ひとつの番組を最初から最後まで視聴しなければ評価できない、という原則を厳密にすると、実態にそぐわず、評価データも集まりにくいという問題がある。そこで、番組の途中からの視聴、途中までの視聴などであっても、評価データの入力可能としている。

【0072】

（評価データの評価主体）

評価データを誰が入力するか、という問題がある。例えば、一人に一台の番組出力装置があるのではなく、複数人で一台の番組出力装置を使って同時にある番組を視聴した場合、評価データに伴って入力する属性データに係る者は誰なのか、ということである。

【0073】

原則としては、評価データの入力および送信を行う者が、自らの属性を伴わせた評価データとして評価データの入力および送信を行う。しかし、評価データの収集を単純化するためなどを目的とし、以下のように割り切ることも可能である。

まず、最も評価データを入力する代表者の属性データに一本化するというやり方がある。また、属性データそのものを、世帯特性として入力してもらう、例えば、家族構成が40代の夫婦と小学生の子供二人、というように世帯を属性データの一単位とするやり方もある。

【0074】

更に、評価データの入力端末装置に、家族ボタンを設けるやり方もある。例え

ば、評価データの入力を行う条件として「父」なのか、「子供」なのか、といった家族ボタンの選択を必須とするのである。また、評価データの端末装置を、家族構成員ごとに設けることとしてもよい。なお、評価データの入力端末装置に物理的にボタンを設けるのではなく、図6に示す評価データ入力装置に示すように、メニュー画面などをソフトウェアにて提供し、選択入力を促したりするやり方でもよい。

【0075】

(属性データ)

属性データとは、性別、年齢または年代、既婚／未婚、職業といった、評価データの入力主体によって入力される主観的なデータを基本とする。

加えて、評価データを継続的に入力していくことによって相対的な位置が決まるいわゆる嗜好（または指向）データを含むこととしてもよいし、嗜好データのみを属性データとしてもよい。

【0076】

(高感度視聴者の抽出システム)

以下、本実施形態の応用範囲について説明する。

上述してきたシステムでは、評価データを番組制作会社へ提供し、次なる番組制作の参考にしてもらうこともできるが、データベースセンターにおいては、評価データ及び属性データを用いて、以下のような高感度視聴者抽出システムを構築することも可能である。

【0077】

例えば、視聴者が放送番組の評価データを入力し、その評価データを放送番組及び各々の視聴者のデータとして作成された評価データベースに対し、各々の視聴者について、他の視聴者に当該評価データを参照にされた回数をカウントするカウント手段と、そのカウント手段によってカウントされた数の多い視聴者を抽出する高感度視聴者抽出手段とを備えた高感度視聴者抽出システムである。

【0078】

加えて、高感度視聴者抽出手段によって抽出された高感度視聴者を出力可能な高感度視聴者出力手段と、その高感度視聴者出力手段によって出力された高感度

視聴者の評価データをリンクさせたリンク手段とを備えた高感度ユーザ抽出システムとすることもできる。

このような高感度ユーザ抽出システムによれば、例えば、番組制作会社が番組制作の参考に一般視聴者から意見を聞きたい、といった要請に対し、図 1 に示すように、データベースセンターがデータを提供することができる。この場合、番組制作会社としては、ランダムに集められた視聴者よりもレベルの高い効率的な意見聴取が期待できる。

【0079】

なお、番組制作会社に限らず、属性データと組み合わせた評価データは様々な使用方法が想定できるが、データを外部へ提供する場合には、属性データなどからプライバシーデータの流出がないように、属性データのマスキング、加工などを行うようにしている。

【0080】

【発明の効果】

請求項 1 ないし請求項 7 記載の発明によれば、有用かつ客観的な番組評価のためのデータを効率的に収集可能な番組評価装置を提供することができた。

また、請求項 8 ないし請求項 10 記載の発明によれば、有用かつ客観的な番組評価のためのデータを収集して活用するためのデータベース装置を提供することができた。

【0081】

また、請求項 11 ないし請求項 14 記載の発明によれば、有用かつ客観的な番組評価のためのデータを効率的に収集し、収集したデータを有効に活用するための番組評価方法を提供することができた。

更に、請求項 15 ないし請求項 17 記載の発明によれば、有用かつ客観的な番組評価のためのデータを効率的に収集可能な番組評価プログラムを提供することができた。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の実施形態の全体を示す概念図である。

【図 2】

本発明の実施形態の一部を示す概念図である。

【図 3】

本発明の実施形態の一部を示す概念図である。

【図 4】

本発明の実施形態における評価データのイメージを示す概念図である。

【図 5】

本発明の実施形態における評価データ利用のイメージを示す概念図である。

【図 6】

本発明の実施形態における評価データ端末装置のイメージを示す概念図である。

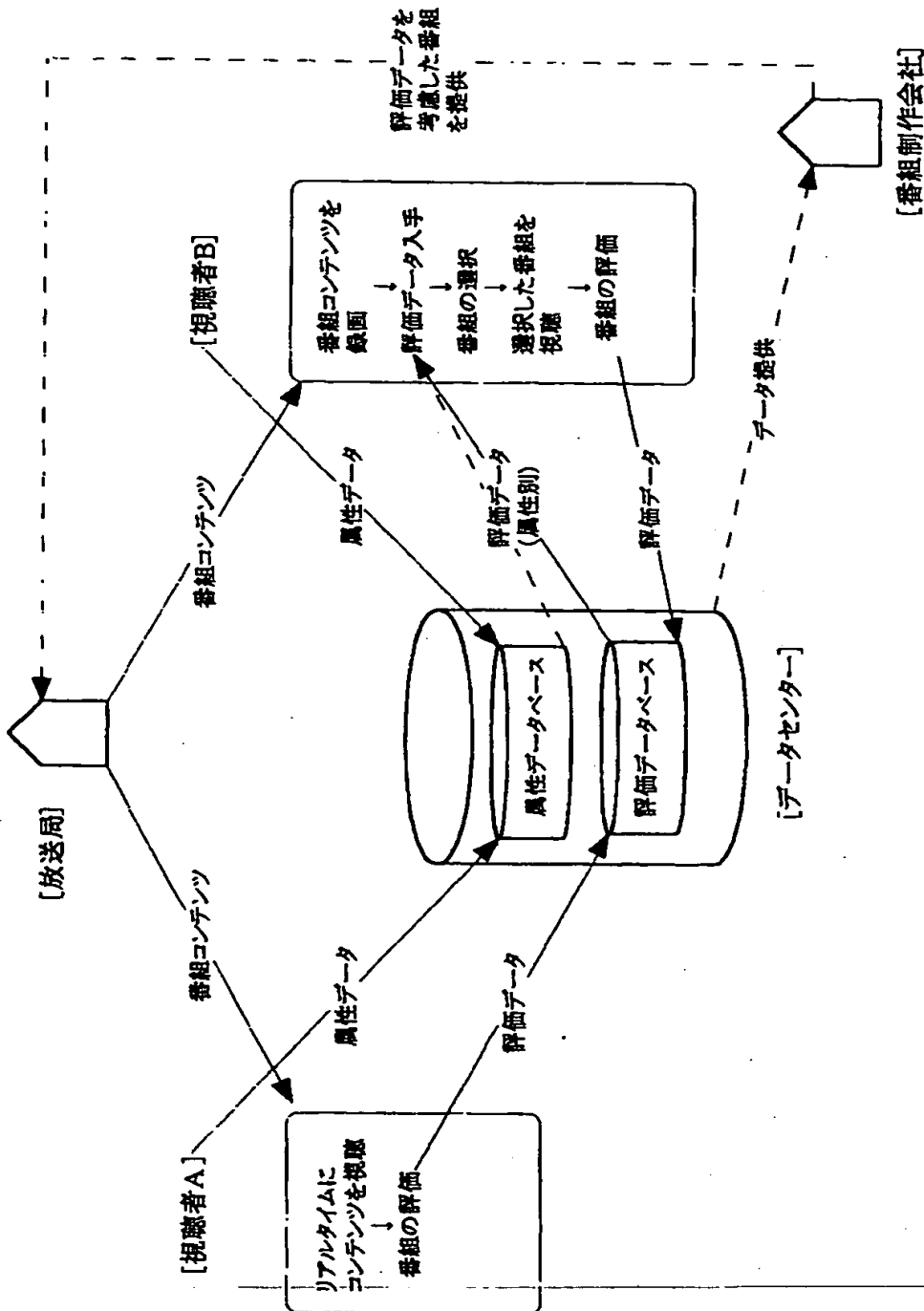
【図 7】

視聴者、データベースセンター、放送局において備わっている機能、およびそれらの機能の達成手段を整理した図である。

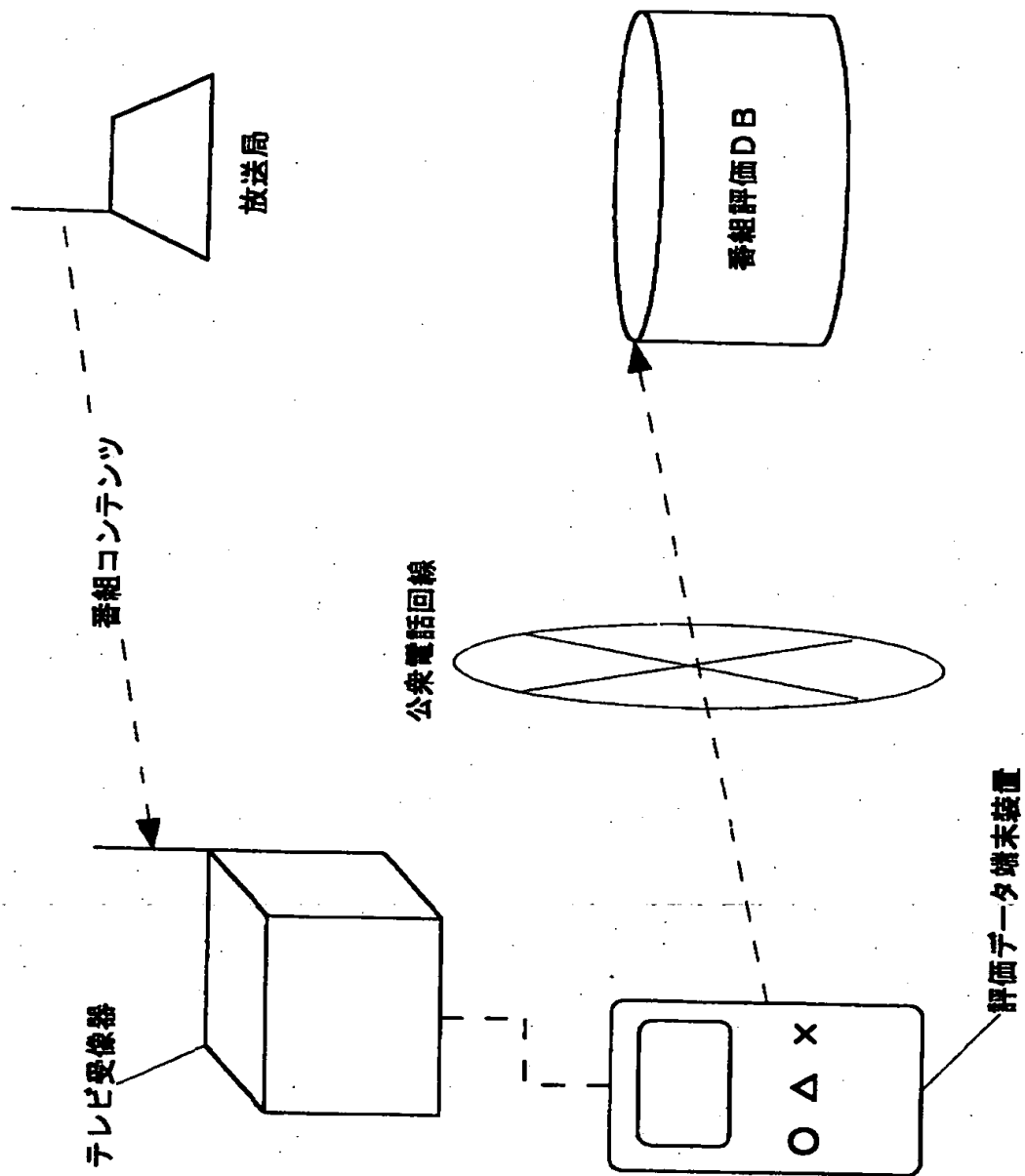
【書類名】

図面

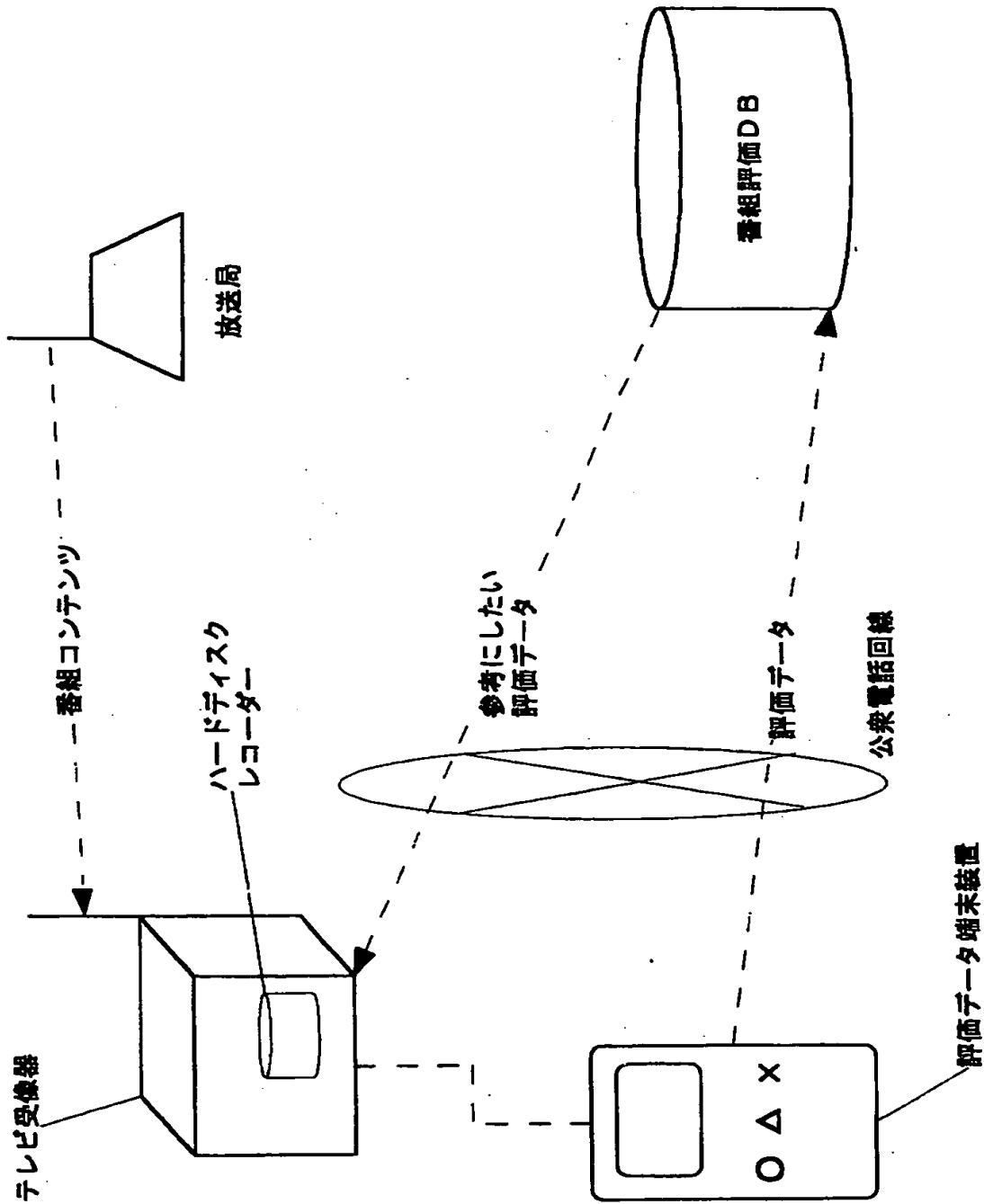
【図 1】



【図 2】



【図 3】

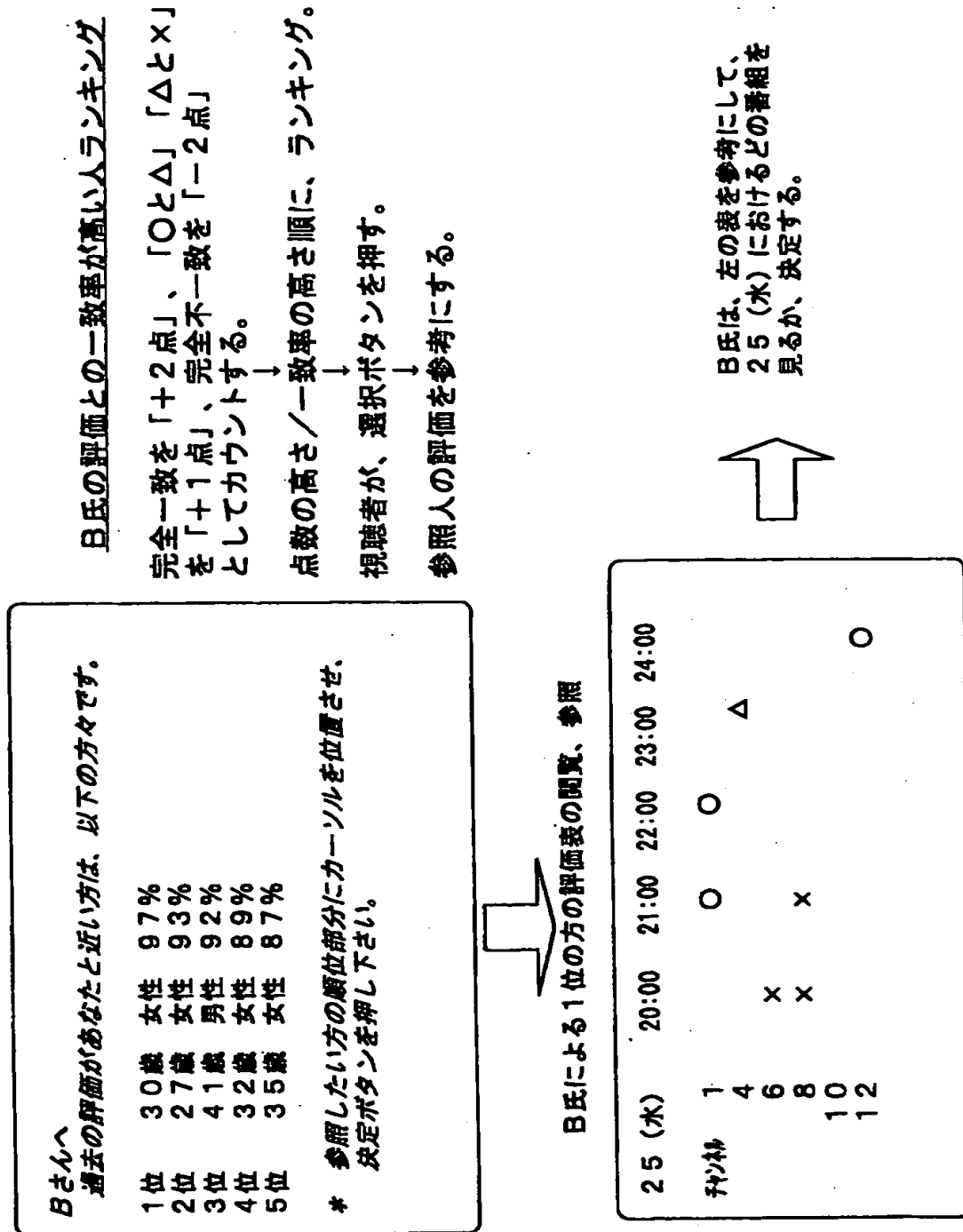


【図4】

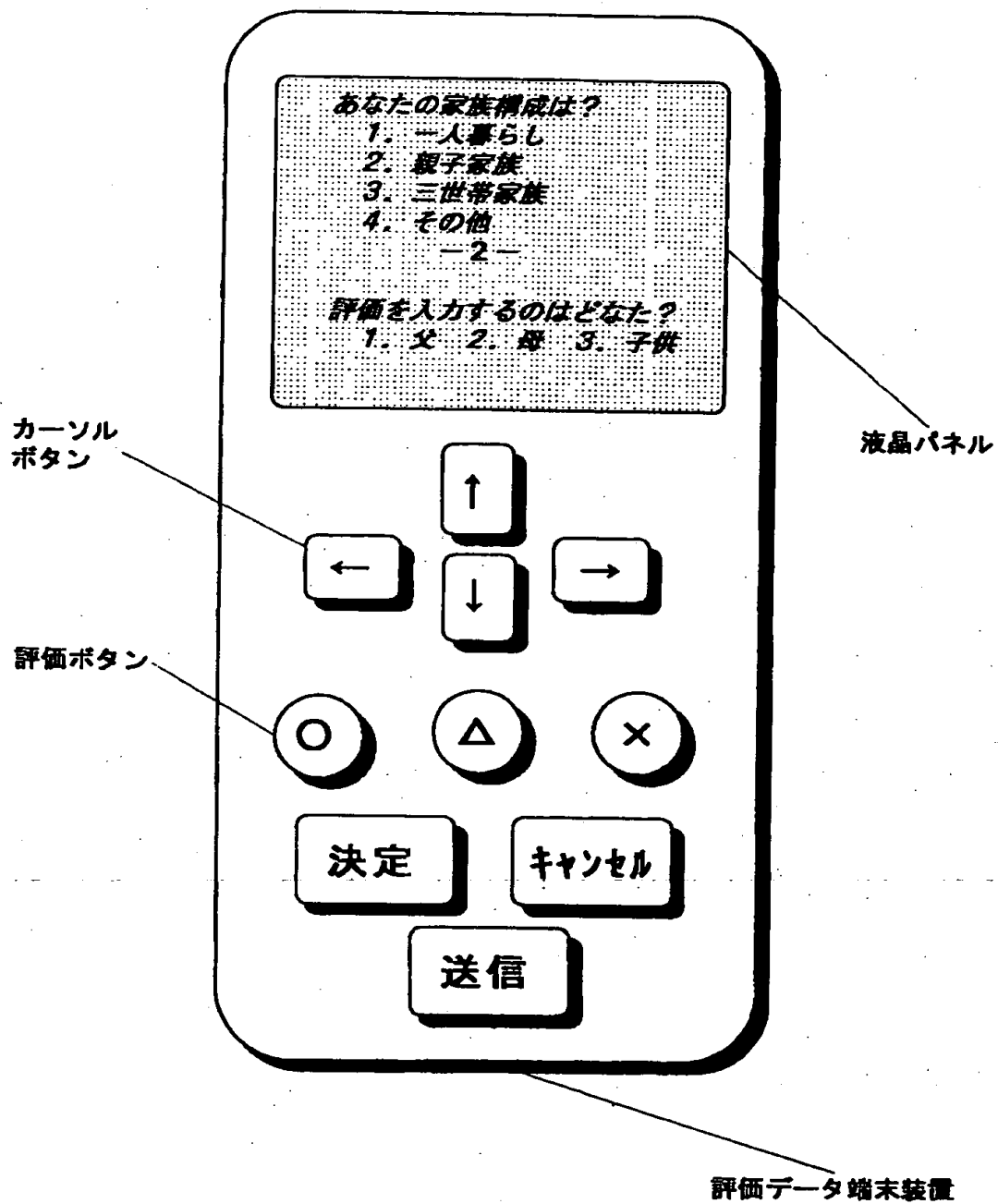
A氏の評価表												
23 (月)	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00							
チャンネル	1	O	O									
	4			Δ								
	6											
	8	x										
	10	x										
	12				x							
24 (火)	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00							
チャンネル	1	Δ	O									
	4			Δ								
	6		x									
	8											
	10	O										
	12				O							
...												

B氏の評価表												
23 (月)	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00							
チャンネル	1		O									
	4				Δ							
	6											
	8		x									
	10		x									
	12				Δ							
24 (火)	20:00	21:00	22:00	23:00	24:00							
チャンネル	1	Δ	O									
	4			Δ								
	6				x							
	8											
	10		O									
	12				O							
...												

【図 5】



【図6】



【図 7】

視聴者のハードウェアに
備えられる機能

- (a) 放送受信機能
ex. テレビ受像器
- (b) コンテンツ出力機能
ex. テレビモニタ
- (c) コンテンツ保存機能
ex. ハードディスク
- (d) 出力検知機能／番組識別機能
ex. センサー
- (e) 評価データ入力促進機能
ex. ソフトウェアにおける
入力促進画面
- (f) 評価データ入力機能
ex. 端末装置
- (g) 属性データ入力促進機能
ex. ソフトウェアにおける
入力促進画面
- (h) 属性データ入力機能
ex. 入力デバイス
- (i) データ送信機能
ex. モデム、通信ソフトウェア
- (j) 参照評価データ要求機能
ex. ソフトウェアにおける
入力促進画面、モデム等
- (k) 参照評価データ受信機能
ex. モデム、通信ソフトウェア
- (l) 参照評価データ出力機能
ex. テレビモニタ

データベースセンターに
備えられる機能

- (ア) データ受信機能
- (イ) 評価データベース
- (ウ) 属性データベース
- (エ) 両データ演算機能
- (オ) リクエスト受信機能
- (カ) 参照データ演算機能
- (キ) 参照データ送信機能

放送局に備えられる機能

- (あ) コンテンツ放送機能
ex. 放送設備
- (い) 評価データ要求機能
ex. モデム、通信ソフトウェア
- (う) 評価データ受信機能
ex. モデム、通信ソフトウェア
- (え) 評価データ出力機能
ex. テレビモニタ

【書類名】 要約書

【要約】

【目的】 有用かつ客観的な番組評価のためのデータを効率的に収集し、収集したデータを有効に活用するための技術を提供する。

【構成】 視聴者側へは、放送番組コンテンツの評価データを視聴者が入力するための評価データ入力手段と、入力された評価データをデータベースセンターへ送信する送信手段を備えた番組評価装置を提供する。データベース側には、放送番組コンテンツについて視聴者が評価した評価データを受信する評価データ受信手段、受信した評価データを蓄積して集計する番組評価データベース、および視聴者へ評価データを送信可能な送信手段を備えた番組評価データ集計装置を提供する。

【選択図】 図 1

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000155469]

1. 変更年月日	1999年 4月14日
[変更理由]	住所変更
住 所	東京都千代田区大手町二丁目2番1号
氏 名	株式会社野村総合研究所

THIS PAGE BLANK (USPTO)